

### 平戸市のミライへ

市内の中学校に勤務し始めた頃、「花いっぱい運動」の文字がある文書を手に入れました。10年前、こんな平戸になってほしいと願いを込めて書いた「花いっぱいの町に市で取り組まれていることに驚き、自分の願いが叶ったことを嬉しく思いました。現在勤務している小学校にも1年中色鮮やかな花々が咲き誇っています。その花を見る度に心が和み、幸せな気分になります。校外でも町の色んな場所に花壇が設置され、たくさんの花が町を賑わせています。現在は、市外だけでなく国外からも観光客が訪れる平戸となっていますので町の花々は平戸市民のみならずたくさんの人々の心を和ませ、明るくしていることでしょう。今後もたくさんの花で人の心を和ませ、「自然いっぱいの平戸」をたくさんの人に感じてほしいと思います。

さて、合併により誕生した新平戸市も10年以上が経過しました。現在の子ども達が考える平戸の課題は、10年前と比べると多様化している反面、変わらないところも多いようです。少子高齢化を招いているであろう子

この作文は、10年前に策定した平戸市総合計画の「平戸市の将来像作品コンクール」で最優秀賞受賞者に、この10年間の歩みと想いなどについて書いていただきました。

育て環境や働く場所、交通の不便等の問題がその例でしょうか。平戸は周りを見渡せば少子高齢化が一目瞭然です。現在は中学卒業を機に平戸を離れる若者も多いようです。しかし、同時に平戸の自然や食材、人の温かさ、平戸城や教会などの歴史的建造物を誇りに思い、そんな平戸を知ってほしいと考えている子どもや、「あいさつで笑顔あふれる町にしたい」「平戸の魚で水族館を作りたい」などと平戸をもっと魅力ある町にしたいと考える子どもも数多くいます。そんな子ども達の願いを少しずつ実現することで、平戸に残り、住む人にとっても観光に来る人にとっても魅力的な平戸を作りたいと思う若者が増えることを願っています。そのために家族や学校、地域みんなで大切な平戸の宝を見守り、育てていくことが私たちの使命であると思います。みんなでやらば！平戸のために。

平戸市 岩本みおり

### 「平戸が日本一」

みなさんは、平戸が日本一と聞いて、何を思い浮かべますか。ふるさと納税日本一、海寺跡のハクモクレン、天然ヒラメの水揚げ、いろいろありますが、ぼくが真っ先に思い浮かぶのが「平戸和牛」です。

ぼくの家は、太島で牛を飼っています。牛舎は「天の原」というところの坂をのぼったところにあります。とても見晴らしのよいところです。

それでは、ぼくの家的工作を紹介します。まず、毎日のえさやりです。朝と夕方2回に分けてあたえます。牛は1日 60kgのえさを食べます。ぼくの家には約 80 頭の牛がいます。牛舎の長さは 50mもあり、何度も往復して、全部の牛にやり終わるまで30分以上かかります。夏は暑くて汗びっしょりになります。冬は寒くて手が痛くなります。きつい仕事ですが、おいしそうに食べている姿を見ると、がんばってよかったなと思います。そのほかにも多くの仕事があります。毎日のことなので、本当にたいへんです。ぼくは、学校が休みの日や時間があるときには牛舎に行きます。手伝いと言うよりも、1日早くプロとしての仕事を身に付けたいと思っています。

ぼくは、5年前の1年生のとき、第10回全国和牛共進会長崎太会を見に行きました。これは、和牛のオリンピックとも言われているものです。そこで出された牛を見て、「すごいなあ。ぼくも、こんな牛を育てて、出したいなあ。」とあこがれました。ぼくがお父さんに「うちも全共に出してみたかね。」と聞くと、お父さんから「うちも、お肉で1回出したとばい。」と言われて、とてもびっくりしました。そのとき、ぼくは「今度はお肉じゃなくて、牛そのものの良さで出したい。」と強く思うようになり

ここでは、平成 29 年度第 12 回平戸市「少年の主張」大会小学生の部で、テーマ「未来の平戸市」で最優秀賞に輝いた作品をご紹介します。

ました。

ぼくは、自分の牛を持っています。とてもおとなしくて、ちょっと太っています。名前は「ふくえ」です。えさを食べていても、ぼくが近づくと顔をあげて腕をなめてきます。とてもかわいいです。この牛は、4年生のときに、お父さん、お母さん、おじいちゃんに相談して、自分の牛として責任をもって育てるよう与えてもらった牛です。

おじいちゃんとも、たくさん牛の話をしました。おじいちゃんは「こがん牛がよかつお。」といろいろ教えてくれました。「ぼくも、じいちゃんのみねをしてやってみよう。」と決めました。

また、ぼくは、5年生のとき、10 か月くらいお世話した牛を売ったことがあります。売りに行くときは、さびしい、悲しいという気持ちよりも、「高く売れてほしい。」「高い評価をもらいたい。」という気持ちが大きかったのを覚えています。

平戸の家畜市場は、売り上げが全国で三位と、とてもいい牛がたくさんいます。今年の全国大会にも、すでに長崎県代表に平戸市の人選ばれています。今年も平戸の牛が日本一になってほしいと願っています。

ぼくは、お父さんのあとをついで畜産農家になります。お父さんたちに、たくさんのかを教わり、自分でも、もっと勉強していきます。そして、日本一の和牛をぼくの手で育てて、もっともって平戸を和牛で有名にします。「平戸が日本一」、この夢をぼくは必ず実現させます。その日が来るのが楽しみです。

太島小学校 6 年 白石 翼